

発刊にあたり(2)

2013年8月に開催された第1回ハンドブック編集委員会および2014年2月に開催された同第2回委員会において、各分冊の構成が検討・決定されたことを受け、2014年6月に第1分冊である基礎・理論編の第1回編集委員会が開催されました。

編集委員会では各章の取りまとめ担当者にお集まりいただき、数回にわたって基本的な編集方針を検討しました。その過程で

- 第1分冊の基本的な編集方針は従来と変わらず、基礎・理論編として一般論を主体とし、基本的な考え方の説明の重点を置くこと
- 2004年9月の前回改訂から10年以上が経過し、自動車を取り巻く環境が大きく変化して技術もめざましく進歩したことを受け、できる限り新しい技術について触れること
- 2002年に初学者向けの教科書として発刊された『自動車工学—基礎—』の内容および本会が定期的に開催している「自動車工学基礎講座」における講義内容も取り込んで内容を充実させること

などの方針が確認されました。その結果、旧第1分冊「基礎・理論編」が全8章から構成されていたのに対し、今回の改訂版では「電動化パワートレイン」、「衝突安全」、「商品企画・車両設計」および「車体設計」の四つの章が増え、全体で12章の構成となりました。これにより、今回の改訂版はより包括的かつ時代にふさわしい内容になったものと考えております。

第1分冊はハンドブック全体の中で最初に配本される計画であったため出版スケジュールが最も短期間であり、また今回の改訂では全体をカラー化するという方針により図版を新しく作り直す必要あるなど、執筆者の方々には大きなご負担を強いる結果となりました。編集委員の方々には多忙な日常業務の中で原稿の取りまとめ、クロスチェックなどの細部にわたり多大なご協力をいただきました。また本会事務局には全体の調整などにおいて大変お世話になりました。これらの方々のご尽力に対し改めて深く感謝の意を表します。

2015年12月

基礎・理論編 編集委員会

委員長 堀内 伸一郎